

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●京都競馬場でJBCの3競走を実施

11月4日(日)、JBCの3競走(すべてJpn I)が史上初めてJRAの競馬場(京都)で実施されました。JBCスプリント(ダート1200<sup>米</sup>)ではグレイスフルリープ(牡8歳/栗東・橋口慎介厩舎)がJpn I初制覇。鞍上のクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)はJRA主催G I/Jpn Iの4週連続勝利および年間7勝の新記録を達成しました。JBCクラシック(ダート1900<sup>米</sup>)ではケイティブレイブ(牡5歳/栗東・杉山晴紀厩舎)が優勝、JRAの競馬場での重賞初制覇を飾るとともに、2017年帝王賞、2018年川崎記念に続くJpn I 3勝目をマーク。JBCレディスクラシック(ダート1800<sup>米</sup>)ではアンジュデジュール(牝4歳/栗東・昆貢厩舎)が勝利、Jpn I初制覇を達成しています。

### ●吉田隼人騎手がJRA通算800勝を達成

11月3日(祝・土)の3回福島1日・第10レースとして行われた磐梯山特別ではノチェブランカが1着となり、同馬に騎乗した吉田隼人騎手(美浦・フリー)は、史上51人目、現役では26人目となるJRA通算800勝(1万100戦目)を達成しました。

### ●戸崎圭太騎手がJRA年間100勝を達成

11月4日(日)の5回京都2日・第3レースではコパノマーティンが1着となり、同馬に騎乗した戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)は、自身6年連続6回目となるJRA年間100勝を達成しました。本年のJRA年間100勝は、C.ルメール騎手、M.デムーロ騎手に続いて3人目のこととなります。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田の結果

ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田は11月7日に実施され、第1戦は出水拓人騎手(佐賀)、第2戦は長谷部駿弥騎手(兵庫)が優勝しました。

### ●エムオータイショウが短距離重賞を圧勝【各地の主要2歳重賞】

サッポロクラシックC(10月30日、門別、1200<sup>米</sup>)は、2番手から直線半ばで抜け出したエムオータイショウ(牡、父スウェプトオーヴァーボード)が後続を5馬身引き離し、単勝1.4倍の支持に応えました。知床賞(10月28日、盛岡、1400<sup>米</sup>)は、後方から追いつけた4番人気の北海道からの遠征馬ヤマショウブラック(牡、父ルースリンド)がゴール前で差し切り勝ち。金沢シンデレラC(11月6日、金沢、1500<sup>米</sup>、牝馬)は、好位の内を進んだ2番人気のパレスラプリー(父ディープブリランテ)が、逃げた1番人気の同じ北海道所属のブレイクフリーをゴール前で捉えています。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●ブリーダーズC~アクセラライトがクラシックに優勝

アメリカのブリーダーズC開催(13のG 1レースを施行)が11月2日、3日の2日間にわたってケンタッキー州のチャーチルダウンズ競馬場で行われました。この開催のメインとなるG 1ブリーダーズCクラシック(3日、3歳上、ダート10<sup>00</sup><sup>米</sup>)に優勝したのはアクセラライト(牡5歳、父ルッキンアットラッキー、J.サドラー厩舎)。道中は6番手追走から3コーナー過ぎでポジションを押し上げて直線に向けて先頭に立つと、後方から追い込んできたガンナヴェラに1馬身差をつけました。アクセラライトはこれでゴールドCアットサンタアニタS(ダート10<sup>00</sup><sup>米</sup>)、パシフィッククラシック(ダート10<sup>00</sup><sup>米</sup>)、オーサムアゲインS(ダート9<sup>00</sup><sup>米</sup>)に続いてのG 1・4連勝(今年G 1・5勝目)となりました。なお、日本産馬で、前走G 1ウッドワードSを勝って臨んだヨシダ(牡4歳、父ハーツクライ)は後方から追いつけて、勝ち馬から2馬身弱の差の4着に健闘しました。また、この1レース前に行われたG 1ブリーダーズCターフ(3歳上、芝12<sup>00</sup><sup>米</sup>)ではイギリスから遠征したエネイブル(牝4歳、父ナサニエル、J.ゴスデン厩舎)がL.デットーリ騎手に導かれて優勝。史上初となる凱旋門賞との同一年制覇を果たしました。

### ●G 1メルボルンC~チェスナットコートは14着

11月6日にオーストラリアのフレミントン競馬場で行われたG 1メルボルンC(3歳上、芝3200<sup>米</sup>)はK.マカヴォイ騎手騎乗のクロスカウンター(騾3歳=現地表記では4歳、父テオフィロ、C.アップルビー厩舎)が後方待機から直線で鮮やかに差し切って優勝。G 1初制覇を果たしました。2着にマルメロ、3着にアプリンスオブアランが入り、イギリス調教馬が1~3着を独占。日本から参戦したチェスナットコートは14着に終わっています。